

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」
平成24年度採択プロジェクト企画調査 事後評価結果報告書

平成 25年 5月 15日
プログラム総括 森田 朗

1. 研究代表者：

梶川 裕矢（東京工業大学 大学院イノベーションマネジメント研究科）

2. プロジェクト企画調査の題名：

情報工学を用いた研究開発課題の設計支援手法の開発

3. プロジェクト企画調査期間：

平成24年10月～平成25年3月

4. プロジェクト企画調査の概要：

論文・特許の横断分析を用いて描画される科学と技術の相互浸透マトリクスの有効性・妥当性を評価することを目標とした。具体的には、第一に、相互浸透マトリクスが学術研究、政策実務、企業実務、ひいては産業の発展にどのような有効性・妥当性を持ちうるかをより具体的に示す、第二に、プロジェクトの本格的な実施段階で構築しようとしている評価フレームワークのアウトラインを示す、第三に、システム使用者の立場から仕様、インターフェース、使用方法などの改善の方向性を見出す、という方法で進められた。

5. 事後評価結果

5-1. プロジェクト企画調査の目標の達成状況

企画調査にあたって示された課題（「どのような政策の形成につなげるのか」、「どのように成果を定着させるのか」）について検討を試みたものであり、半年という短期間の企画調査としては意欲的な計画であった。しかしながら、計画された内容と活動・成果の間にずれが見られ、特に、上記概要の第三に示された点の調査、検討については不十分であると判断されることから、計画の内容および目標がすべて達成されたとは言い難い。

5-2. 研究開発プロジェクトの提案に向けた準備状況

科学と科学、技術と技術、技術と社会の関連性分析を行い、社会動向や環境変化を踏まえた開発すべき技術課題の設計、関連する基礎研究領域の抽出を行おうとする問題意識は重要であり、エビデンスに基づく政策形成に向けた興味深い取り組みである。企画調査およびそれに基づくプロジェクト構想からは、技術移転が進行中の技術領域の効果的抽出、他産業での技術発掘、ブレークスルーにつながる技術領域の抽出などがデータドリブンに行われる可能性が示されており、テーマの継続による成果の創出には期待がもてる。

しかしながら、報告書の範囲では、上記の知見を「新しい政策の形成にどのようにつなげるのか」という「政策のための科学」の観点での展望や構想の具体化につなげる視点が弱く、提案にあたっては、その観点での全体的な見直しが必要である。

なお、報告書における文章の論理性・明瞭性が十分でない、と複数の評価者から指摘があり、そのために構想そのものの論理性・明瞭性に疑義を持たれる結果となっている点が憂慮される。今後の構想にあたってはその点を改善することが必要である。

以上